

日清紡ホールディングス株式会社
「2023年12月期第2四半期決算説明会」 質疑応答要旨

2023年8月8日に開催した機関投資家向け決算説明会における主な質疑応答をカテゴリー別にまとめました。

無線・通信事業について

- Q1 日立国際電気の株式取得の実行日が未定になったが、そもそも業績予想に織り込んでいなかったため、下方修正要因ではないと理解してよいか。
A 日立国際電気のPLへのインパクト等は、元々今期は見えていない。7月末にクロージングを迎えれば3Qからの取込みとなったが、独禁法の審査に時間がかかっている。8月にずれ込むと4Qからの取込みとなり、あまり大きなインパクトはない。
- Q2 無線・通信の進捗がかなり低いのが、どう取り戻していくのか。
A マリンは好調で受注残が多く残っている。電子部品を確保できれば、出荷し利益につながるので、あと半年努力していく。設計や研究開発の内製化による外注費の低減など、一般的なコストダウンも進めていく。

マイクロデバイス事業について

- Q3 今期の1Qと2Qを比較すると、増収・大幅減益となっているが、その背景は。下期の見立ては。
A 部材の高騰と、年内の見通しが弱含みのため工場の稼働を落としていることが要因。部材の高騰による影響は、電子デバイス事業においてはそれほどは大きくないが、マイクロ波事業で効いている。先の見通しについては、中国の動きがはっきり見えないのが大きな不確定要素だが、スマホ関係を中心に少し回復してきており、そのあたりを期待している。
- Q4 まだ減産は続いているのか、需要が戻った時には急速な戻りを期待できるのか。
A まだ減産は続いている。我々は車載・産機・民生の三つの分野があり、生産に大きく影響してくるのがボリュームの大きい民生。主に中国向け景気が大きく回復してきていない状況で、どのあたりから増産に転じるかタイミングを図っているところ。生産能力のアップはしているため、急増には十分耐えられる体制を敷いている。
- Q5 車載と産機の状況について、解像度を上げた説明を。
A 車載は概ね堅調で、計画に近い数字で推移。中国が昨年末で一度止めた優遇政策を再び始めたため、年末にかけて増えてくるものと見ている。ただ車載は受注して2年後に出荷など中長期的なものになるので、それが大きく生産に影響することはあまりないかと考えている。産機については、半導体装置などは弱含みが続くと見ているが、FAやロボット関係は非常に好調なところがあるのでまだら模様となっており、それがもう少し続くと考えている。
- Q6 半導体産業では、後工程への関心が高まってきている。それを事業機会としてどう捉えているか。
A これからの競争力は、ご指摘のように後工程にあるので、新しい実装技術や複合パッケージなどに対応できるよう準備を進めている。

ブレーキ事業について

- Q7 ヨーロッパ以外の地域で価格転嫁が遅れているということだが、日清紡ブレーキについて今後どのように進捗するのか。TMDはアフターマーケット中心のため、価格転嫁が比較的容易に進捗したのだと思うが、下期以降の見立ては。
A 主力の日本、アメリカで昨年からの価格交渉を続けており、継続的に努力していく。特にアメリカでは生産量が計画量に戻ってきておらず、20%ぐらいのマイナスでずっと推移している。売れ筋の車はまだ2-3年待ちという状態で、数量の回復は来年にかかると見ている。TMDはアフターマーケットだけでなく、OEM品も価格転嫁が順調に進んでいる。
- Q8 日清紡ブレーキは価格転嫁が緩やかにしか進まない、下期や来期も厳しい予想を立てざるを得ないがどうか。
A 原燃料価格の高止まりに加えて、特にアメリカでは労務費が高い状態。交渉のやり方を工夫していかないといけない。ただTMDのような大きな期待は持てないと考えている。

化学品事業について

- Q9 燃料電池セパレーターとカルボジライトについて、お客様事情によりずれ込んでいるということだが、もう少し詳細な説明を。
A ヨーロッパでの市況が悪く、納期が延期となっている。オーダーが止まったわけではない。定置用のセパレーターは設置が進んでいないため、もう少し待つて欲しいと言われている。カルボジライトもお客様の在庫がはけていないのと、上期に予定していた新規受注分も、お客様の方で他の部材の手配が間に合わないということで下期にずれ込んでいる。